

東日本大震災後における感染症予防対策

平成23年5月27日

感染経路	病名	原因病原体	症状	予防・対処
外傷 (傷のある状態で がれきやヘドロに 触れた時)	はしょうふう 破傷風	破傷風菌	破傷風菌の神経毒で関節や筋肉が痙攣をおこす。潜伏期間は3～28日。進行すると顔面筋が硬直し、全身が弓型に反る。致死率は50～80%。	トキソイド予防接種(40歳以上はとくに) 十分な傷口の洗浄
	えそ ガス壊疽	ガス壊疽菌	皮下組織でガスが発生し、激痛、水疱が形成、筋肉壊死が急激に進行する。潜伏期間は8時間～20日。未治療ならば48時間以内に死亡。	十分な傷口の洗浄と異物の除去、過酸化水素による消毒、抗生物質・抗毒素投与
	ほう か しきえん 蜂窩織炎	黄色ブドウ球菌	水や泥の中でけがをした際、足などに感染しやすい。感染すれば皮膚が熱をもって腫れる。広がるとリンパ節の痛みを伴う。	虫刺されや土いじりなどに注意。手袋、長袖のシャツ、ズボンなどを着用し傷がつかないようにする。特に爪周囲の清潔に心掛ける。
吸引 (粉塵など)	誤嚥性肺炎	口腔内細菌、嫌気性菌に加え腸内細菌、緑膿菌、ビブリオ属など	吸引した菌の種類により症状は変化する。腸内細菌などが原因の場合、壊死性または出血性肺炎を示す。	口の中をきれいにする。
	レジオネラ肺炎	レジオネラ	汚染された水の誤飲・ミストの吸入により発症する。潜伏期は4～10日。風呂・シャワーからでも感染する。	抗生物質。
動物媒介 (ノミ、ダニ、ネズミや犬の糞尿など)	ツツガムシ病	リケッチア	ダニの一種ツツガムシが媒介。潜伏期は5～14日。39℃以上の高熱が出て、数日で体幹部に発疹。放置すれば致死率は30%程度といわれる。	長袖・長ズボン・長靴・手袋を着用し、肌の露出を減らす。脱いだ上着やタオルは、不要意に地面や草の上に置かない。草の上に座ったり、寝転んだりしない。
	レプトスピラ症	レプトスピラ	ネズミや犬の尿との接触による経皮感染、または汚染水引用の経口感染。潜伏期間は3～14日。重症型の場合は黄疸と出血を伴う。未治療ならば致死率は20～30%。	げっ歯類(ネズミ)に注意する。抗生物質。
	ハンタウイルス症	ハンタウイルス	ネズミの糞尿や唾液中のウイルスの吸入、または経皮(咬傷)摂取で感染。発熱、嘔吐などの後、腎障害、呼吸困難など。潜伏期間は1～5週間。	ネズミ対策。残飯や食料にネズミが集まることがないように、ふたの出来る容器に収納する。
	発疹チフス	リケッチア	シラミなどを媒介して経皮感染。40℃近い高熱の後、約1週間で全身に発疹。潜伏期間は1～2週間。未治療の時致死率は50%超との報告も。	シラミ駆除を徹底する。抗生物質。
飛沫感染 (咳、くしゃみなど。 避難所などの集団生活)	インフルエンザ	インフルエンザウイルス	震災直後、避難所ではA香港型(H3N2)が、現在ではB型も流行。高齢者では重症化する例も多い。38℃以上の高熱は注意。	予防接種。うがい・手洗いの励行、マスクの着用。抗インフルエンザ薬を供給する。
	肺炎球菌性肺炎	肺炎球菌	”鉄さび色の痰”が特徴。敗血症、髄膜炎、関節炎など転移性病変の合併率が高い。	うがい・手洗いの励行、マスクの着用。
	マイコプラズマ肺炎	マイコプラズマ	初発症状は発熱、全身倦怠、頭痛など。長く続く、頑固な咳が特徴。避難所で飛沫感染により蔓延する可能性あり。	うがい・手洗いの励行、マスクの着用。
	百日咳	百日咳菌	約1週間の潜伏期間を経て、風邪症状が1～2週間続き、その後激しい発作性の咳が1～6週間持続。1歳未満の幼児は約1～2%が死亡	うがい・手洗いの励行、マスクの着用。抗生物質。
経口感染 (飲み水、食べ物など)	腸管出血性大腸菌感染症	大腸菌	O-157・O-111などが有名。多くの場合、3～5日の潜伏期間を経て、激しい腹痛と鮮血便が出る。	生や加熱不十分な卵・鶏肉・肉などを食べないようにする。
	サルモネラ感染症	サルモネラ	代表的な食中毒の原因菌。健康な成人ではその症状が胃腸炎にとどまるが、小児や高齢者では重篤となることがある。	生や加熱不十分な卵・鶏肉・肉などを食べないようにする。
	ノロウイルス、ロタウイルス感染症	ノロウイルス、ロタウイルス	嘔気、嘔吐、下痢、発熱。	手洗いを徹底する。アルコール消毒は無効なので、次亜塩素酸(漂白剤等)でトイレ・手洗い所を消毒する必要がある
	ウイルス性肝炎(A型肝炎、E型肝炎)	A型肝炎ウイルス、E型肝炎ウイルス	A型は海産物、E型は未加熱動物肉の摂取で感染。2～6週間の潜伏後、発熱、嘔吐が発症、黄疸、濃色尿などを示す。	歯ブラシ、カミソリなど血液が付いている可能性のあるものを共用しない。他の人の血液にふれなければならないときは、ゴム手袋を着用する。
	エキノコックス症	エキノコックス(寄生虫)	犬、猫の糞に入ったエキノコックス(寄生虫)の卵を、水や植物を介して経口感染。致死的な肝機能障害。致死率は5年で70%、10年で90%超。	山菜などを直接口にしたりせず、山菜は十分な加熱や水洗いをする。手洗いを十分にす。
空気感染 (避難所などの集団生活)	結核	結核菌	2週間以上持続する咳が見られる場合は注意。感染力が強く、避難所で生活する高齢者は注意が必要。	体力をつける。
	麻疹(はしか)	麻疹ウイルス	潜伏期間10～21日。発熱3日程度で一旦解熱し白い斑点が出現。再び高熱と発疹が出る合併症を引き起こすと致死率上昇。	マスクの着用。ワクチン接種。
	水痘(みずぼうそう)	水痘ウイルス	潜伏期間10～21日。掻痒感、発熱が2～3日間続く程度が大半だが、成人ではより重症になり、合併症の頻度も高い。	ワクチン接種。

※日本感染症学会ウェブサイトおよび週刊ポスト6月3日号の資料をもとに本学が作成。